

めんどくさいけど
だいじなこと！！

これからは、しっかり頭に入れてください。

現代は、自分の死亡した時の自身の財産についての相続税計算を行い、相続税額の負担のこと、財産の組み換えのこと負債管理のこと等を指示しておかないと、あなたの相続人が途方にくれることになります。

相続税の面倒な計算を、間違いなく端数計算等は勿論、一銭のくるいもなく、瞬時に計算、算出するソフトがあります。

素人が簡単に入力できるように設計されていて、いろいろ課税要件を入れ替えることができ、考え方に合わせてシミュレーションすることが可能で、変化した要件に対し、瞬時に正確な納付税額を算出、提示します。

税理士等に頼むと時間もかかり、費用も100万内外請求されますが、これはその心配はありません。

いちいち税額表をめくらなくても、累進率等も間違わず自動選択し、法令に違わず計算、一部の税額控除を除いて、全部課税要件に合わせて自動計算し、現行法に則り税額を算出、提示します。

その結果は、だれよりも迅速で正確です。

何故、こんなソフトを創ったかという、ある相続の相談に与ったときに、税額計算を即座にしなければならない立場に立たされました。

相次相続税額(次々に負担する相続税額)のことを前もって、相続人に知らせなければならなかったからです。

被相続人の配偶者が今にも亡くなりそうで、亡くなった場合は、被相続人からの遺産に又相続税が課税され、税負担が大変です。

そう、財産評価は、世の中の概算額とそう違うことはありません、路線化の価額は売買時価の 7～8割くらい、固定資産税の評価額は路線化の8割くらいで、一番安い固定資産税価額と売買時価との間の差も、せいぜい 1.7～2倍の範囲内です。

それに引き換え、相続税額の計算は、相続人等の財産の承継の仕方や相次相続という、親、子、孫…、と連続する相続の場合は、財産の取得の仕方により税額が極端に違うことがあり、評価も含めて、瞬時に相続税等のシミュレーションをする必要に迫られたのです。

先ほど、配偶者の取得財産を1億6千万円とし、子供2人の取得財産を 0 としました。いま世間一般でそういう相続がされていますが、配偶者が、相続後すぐに死亡したとすると、夫から相続した財産に、また相続税が課税され、夫から妻へ、妻から子供へ同じ財産が渡り歩いただけで、その税額は、14,000 千円となり、残された子供2人で負担することになります。

事前にこのことを見越してもっと有利な方法を執っていれば、夫死亡時の残された遺族全員の納付相続税は、7,332,200 円、配偶者死亡時は、同じく 0 円で、合計額 7,332,200 円となり、最初の例の 14,000 千円との差額は、6,667,800 円となります。実際に、このようにして、対面相談で具体的な数値を提示し、顧客に喜ばれました。

是非、皆様もこのソフトを利用して、シミュレーションしてみてください。
難しい相続税計算が、簡単に思えるようになり、楽になります。

相続税税額計算の基本

1. 日本の税金のうちで、相続税ほど煩雑で、難しい税金はありません。
2. 始めの難関は、時価評価による遺産の課税価額を確定させることです。
 - 1) 基本的には相続財産は時価で評価しますが、大体は次によります。
 - ①不動産のうち宅地については、路線化方式、倍率方式等があり、農地は色々です。
 - ②家屋は、固定資産税評価額による。
 - ③立木、果樹は、標準価額×85%で評価。
 - ④事業用機械、器具、農機具等は、現状のままで買うとした場合の価額で評価。
 - ⑤上場株式次の最も低い価額で評価。
 - A. 相続開始日の終値。 B. 相続開始月の終値の月平均。
 - C. 相続開始月の前月の終値の月平均。 D. 相続開始月の前々月の終値の月平均。
 - ⑥取引所相場のない株式は次の適当な評価によります。
 - A. 類似業種比準方式 B. 純資産価額方式 C. A B 併用方式 D. 配当還元方式
 - ⑦預貯金は、相続開始日現在残高＋開始日迄の既経過利息で評価。
 - ⑧家庭用財産、自動車は、現状のままで買うとした場合の価額で評価。
 - ⑨書画、骨董は、類似品の売買価額、専門家の意見を参考に評価。
 - ⑩電話加入権は、取引価額、標準価額により評価。
 - ⑪このほかに小規模宅地の特例、特定事業用宅地等の特例による 80%～50%減額評価。
 3. 次の難関は、税額計算の仕組みです。
 - ①一定の遺産額を、課税対象外とする為、次の基礎控除額控除後に課税価額を決定。

遺産に係る基礎控除額＝5,000 万円＋(1,000 万円×法定相続人数)。

例えば、遺産(債務・葬式費用控除後、生命保険、退職金含む)1 億 6,000 万円、法定相続人は、妻、子供 2 人の合計 3 人とする、次のとおり(全て千円未満切捨)。

相続税課税価額は、遺産 1 億 6,000 万円－基礎控除額 8,000 万円＝8,000 万円(イ)
 - ②この課税価額×各相続人等の法定取得財産額／各相続人等の法定取得財産合計額で計算して一人ひとりに得た額に、各人ごとに次の速算表の該当税率を乗じ、該当金額の表にある控除額を控除して得た額を合計して、相続税の総額を算出します。

単位千円

法定取得額	10,000 以下	30,000 以下	50,000 以下	100,000 以下	300,000 以下	300,000 超
税 率	10%	15%	20%	30%	40%	50%
控 除 額	0	500	2,000	7,000	17,000	47,000

計算

妻分 (イ) $\times 1/2 \times 20\% - 2,000$ 千円 = 6,000 千円 → 6,000 千円(ロ)

子供各々分 (イ) $\times 1/2 \times 1/2 \times 15\% - 500$ 千円 = 2,500 千円 → 2 人分 5,000 千円(ハ)

相続税の総額は(ロ) + (ハ) = 11,000 千円(ニ)

③配偶者がいる場合、次の A B 金額の多い分に関する税額を配偶者税額軽減として控除。

A. 相続税の総額 \times 配偶者取得財産 $\times 1/2$ / 各人取得価額(千円未満切捨)合計(ホ)

B. A の配偶者取得財産 $\times 1/2 < 160,000$ 千円の時、

相続税の総額 $\times 160,000$ 千円 $\times 160,000$ 千円 / (ホ)

④配偶者が遺産 160,000 千円の全てを取得したと仮定(一番納付相続税が安くなる筈)。

配偶者の税額軽減満額を取る事を目論み、全財産配偶者取得時の控除額計算式。

配偶者の税額控除額は、(ニ) \times 取得遺産 160,000 千円 / (ホ) = 11,000 千円(ヘ)

⑤相続人各人の納付税額計算。

配偶者分 = 相続税の総額 \times 該当者の取得財産 / (ホ)

子供各々分 = 相続税の総額 \times 該当者の取得財産 / (ホ)

④の全財産配偶者取得の場合の計算式。

配偶者分 = (ニ) 11,000 千円 \times 取得遺産 160,000 千円 / (ホ) - (ヘ) = 0 (ト)

子供各々分 = (ニ) 11,000 千円 \times 取得遺産 0 千円 / (ホ) = 0 (チ)

合計納付税額 = (ト) + (チ) $\times 2 = 0$ → 以上正確な納付相続税額計算です。

読み飛ばしてもよかったのです。

ソフト制作：小林猪二

Email : info@kobayashi-kaikei.org